



洛陽名筆集目錄

上

藤木甲斐

敦直

賀茂

蓮光院

真如堂

龍善院

比叡山

春深

高野山
西方院

北小路宮内

宗利

堀江治部齋

巽甫

鳥山孫兵衛補成

荒木素白

内膳

道教

大石三右衛門

仇々木志須磨

七兵衛

雲竹

北向八郎右衛門正實

心惠

世尾庄六

村井了設

賀茂

筒井白雲子

古泉進

藤木甲斐

仙洞悉領百千眷属皆住極果

聖人譬如栴檀之林唯有栴

檀圍繞亦赤鬚而手捧玉鉢有

白足耳掛金環

少知少知
 減少少知
 少知少知
 少知少知
 少知少知

あはれ
おかし
うき
うき
うき
うき
うき
うき

にきん いひる もとをたかきいし
いふぬはふかれしきふたふ

歎冬

點着唯黃天有意歎冬誤綻暮春風
書窓有卷相收拾紙無又束なり
かひひく おみなふたふたふたふ
いふたふたふたふたふたふたふ
うふたふたふたふたふたふたふ
うふたふたふたふたふたふたふ

龍善院

自是三千

第一名

内家叢書獨

弘明

芙蓉殿上

中間日

水柏銀盤

美人化生

春深

尋得桃源好避

惜桃紅又見一年

春花飛莫遣隨

めいふふふふふふ
はるるるるるるる
ふふふふふふふ
ふふふふふふふ
ふふふふふふふ
ふふふふふふふ
ふふふふふふふ

ふふふ

ふ

北路富

えんてふふふ

ふふふふふ
ふふふふ

ふふふふふ
ふふふ

ト一の二五五五

一〇〇〇〇〇

中核の四倍

一〇〇〇〇〇

ためト力一〇〇〇〇

一〇〇〇〇〇

堀江治部齋

無近利境入高瑞

恒落秋江隱萬風

歩如未收海心勢

あふふ自説印

うきうきうきうきうき

あふふ

うきうきうき

あふふ

鳥山

あふふ

あふ

あふ

其
心
之
意
其
其
其
其
其

其
其
其
其
其

其
其
其
其
其

古香齋

一
新
水
天

あゝあゝ

あつた

荒木素白

あゝうゝもふなうわはむ
たまあうれきゆゑなう

何志孝
乃心以事

あつちのうさくらんが
しるは乃ゆゑあふ
さうわ

ゆめにあはれ
きこふらん

大石道教

かきつゝのうらみは
ぬれぬらむとて
かきつゝのうらみは
ぬれぬらむとて
かきつゝのうらみは
ぬれぬらむとて
かきつゝのうらみは
ぬれぬらむとて

ちのうらみ

ちのうらみ

ちのうらみ

ちのうらみ

ちのうらみ

中
漢
不

悦々木志須磨

一
人
入
あ
ぬ

駢徐君

塚上廐

猶懸

安事之

名

あはれ
あはれ
あはれ

上五

あはれ
あはれ
あはれ

先曰一祝
名子打
未之始
始

白川伝

之是
名
名

此乃心之氣也
心之氣也
心之氣也
心之氣也

北向雲竹

無諂曲以求人意亦復不為諸根所牽行少欲者心
則坦然無所憂畏觸事有餘無常不足有少欲
者則有涅槃是名少欲 汝等比丘若欲脫諸苦
惱當觀知足之法即是富樂安隱之處知足
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無
罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

あゝらゝわらわのあ
こたゝいふれはうゝあ

よにみじん
な

やまゝ乃そらあゝた水
あゝなほはあゝく
ひのおいさき
うら

聖尾正慧

石本
為洞

玉葉
嵐室
抱朴
拂

鳥獨

おほいへん

う

はまのうら

ふ

いんちき

うきなう

け

福石まき

生れと

新華曉月

出雲布

村井了設

冬像雅經

しやれさやうさひまの
うさやうにるんう

ちつてあるあ

きちのこあすあしきさすは橋
あさあさうさうさうさ

如くけりてやそれ
はれあへぬきなり

後世相傳宮内

[illegible]

筒井白雲子

長樂鐘聲

花外集

我代柳公

每半深

寺田無禪

西池備中

賀茂

水尾氏部

木川常伯

三右衛門

藤田友閑

世根喜兵衛

西村方石

專以

普願寺古歌

宗達

知恩寺

石川丈山

游觀音堂

西嶺
崎嶇
曾儲
地禎

谿川
轉漕
官丹
城

羣漁携網臨淵立
百丈挈舟倚岸行
氣象巖中沫水漲

龜蒙出五暮雲橫
翠微盤礴大悲閣
威舊鳴鐘三卯敲

明曆三年五月望書

六山人



河口田慶

雲汾風輕幽棲春向陽光喜繁
寒身不震曝錦寫挽谷白浪競
舞魚躍潛民成學文儀整、公
心正職任擢、乞部兄象盛心
身獨嬰致毒懷育人

初也能松のうらなは

ちりり反

ちりん

しん

りのうらな

しんしんしん

しん

しんしんしん

あいのうらな

那波木菴

次韻

太醫令道三席上

見示

聯句論詩歸去遲

座中譚笑最清奇
梅花粲、出牆處
猶待黃昏月到時

圓常

天生幽裏

春杖眉

ふ老門市

日月屋

草春

事一多くは先照

まふ事多し後照

地乃初雪より後

然り水はく一二より

とめせうりおと

くろ石中三請

と相あまう月あ

うり

尾片宗鑑

山里乃

おしり

おしり

たふくくく

田
屋
お

平野仲菴

紀友則

夕

あ乃

の川

あま

あま

中納言朝臣

河津の

子とてあは

あつゝ

心を

あつゝ

あつゝ

木利齋

南枝

水枝

寺田無禪

梅會
谷
已
異

夜
遊
人
有
壽
末
把

ふきくもあや

折る器

た

め

う

は

う

は

い
ち
ち
ち
し

い
ち
ち
ち
あ
れ

い
ち
ち
ち
あ
れ

む
い
ち
ち
ち
あ
れ

い
ち
ち
ち
あ
れ

い
ち
ち
ち
あ
れ

い
ち
ち
ち
あ
れ

あ
れ
ち
ち
あ
れ

友閑

六 第 百 五
所 記 集 之
力 中 以 記 之

水 記 集 之
力 中 以 記 之
力 中 以 記 之

、本紙お茶

之将様

米川常白

ちよね茶

ちよね茶

茶

ちよね

水尾民部

あはれきり

あはれきり

あはれきり

あはれきり

あはれきり

梅敷廻車叱牛

率白水了子居金

子餘所官役

三十一

聖報喜共衛

月之初溪客

病者入

雲を山為

且苦海

あふるはる

ふに

みゆれ

西村方石

風送昨夜

夢多油心

露乃明朝

減之禁

うゑのはらへ

くらま

さあ

くら

あゝのうゑ

少くもやうに

あゝのうゑ

あゝのうゑ

あゝのうゑ

あゝ

智者大師教誡銘

固守戒律不行嬌雖及死門不安語
雖療治病不飲酒常唱佛名不多言
常好閑靜不交衆永捨執財不好利
求菩提不望官福行乞食不受請用
起卑下心不憍慢縱雖得理不論談
衣隨求得不好色食隨求得不得美食

住平等心不辨親疎營佛法事不近遊戲
昵善友者不語惡友親道心者不近狂人
談及打誨不發瞋恚設雖死

宗達

題跋乃士山是
盤石無礙已
出家西歸經卷

五枝竹初青
空林多幽
坐聽松風
半

了
片
案

延寶二甲寅年

正月吉祥日

永田長兵衛板行

